

保育園において新型コロナウイルス感染症が 発生した実際の対応(2)と 変異株について



国立感染症研究所感染症疫学センター 菅原 民枝 大日 康史

■皆さんも進化されましたか？

保育園の先生方、関係者の皆さま

先月号（本誌2月号）でお伝えしたとおり、日本国内で新型コロナウイルス感染症が発生して一年経過しました。まずは、過去の状況を冷静にそして未来をも冷静に受け止めていきましょう。

いよいよワクチンが、医療従事者から開始し、順次高齢者、高齢者施設職員へと接種が予定されています（2021年2月18日現在）。しかしながら、まだまだ注意が必要です。これまでと同じ生活に戻ることはないでしょう。

しかし、一年前の不安でどうにもならなかった状況とは違い、対策をするうえでわかってきたこともたくさんあります。様々な活動を中止や延期してきましたが、何もかも制限するのではなく、感染症対策をしながら、保育園での生活を、子どもも大人も楽しく、工夫していきましょう。

冬の季節は水が冷たく、手洗いが不十分になりやすいですが、どうしたら、楽しく手を洗うことができるでしょうか。食事の時間はお互いの顔を寄せ合うことは難しいですが、どうしたら、楽しい時間になるでしょうか。たくさんの人が同じ時間と場所に集まる行事は密になりやすいので卒業式ができるのかどうか不安ですが、どうしたら、一緒に感動的な時間をすごすことができるでしょうか。

多くの保育園が、子ども、保護者、職員の皆さまの笑顔を守るためにたくさんの工夫をされてきたと思います。おそらく一年前には想像もしてい

なかった生活が日常になってきました。オンラインで研修を受けるとは考えてもみなかったことです。オンラインで子どもの様子をご家庭に届けると誰が考えていたでしょうか。

A保育園では、保護者との紙の連絡帳が唯一の方法であったのに対し、オンラインの連絡帳になりました。毎日のクラスの様子のみならず個人の成長の様子が、保護者や祖父母も画面を通して共有できるようになりました。体温測定記録、身体測定記録、食事やトイレの回数といった記録することが目的ではなく、情報を共有できます。文字通りの見守りをすることが可能になりました。祖父母の方は、会えないけれど、様子がよくわかるとおっしゃっているそうです。

B保育園では、保育発表会は人数が多くなるので中止の案があったのに対し、近隣のビデオ撮影の専門家の協力のもと映像として配信をしました。専門家による撮影ですので、一人ひとりの子どもの表情をとらえていました。会場には各家庭保護者1名のみ参加でしたが、祖父母宅では、それぞれにインターネット中継で同じ時間に観ることができました。のちに祖父母から電話が入り、たくさんの感想を伝えてくれたそうです。

昨年の12月ごろには誰も考えてみなかった方法ですが、とても便利になりました。画面を通じてだけの出会いは少しだけ寂しい気持ちにもなりますが、全く会えないままの状態や、行事を中止した時の子どものがっかりした気持ちを思えば、どのような方法でも子どものためになったのでは

ないでしょうか。A保育園やB保育園のように、多くの保育園がやってみようと挑戦されたことと思います。進化していると思います。悩みながら、よい方向になっているにちがひありません。変わっていかうとすること、その先に、これまでみたことのない景色があります。それは、とても楽しいことなのです。家庭で保護者と一緒に保育園の様子を見ることができて、喜びもあったことと思います。先生方の勇気をふるってがんばってくださっている姿に、子どもたちも影響を受け、大きく成長しています。こうした取り組みも感染症対策の1つです。

一方で、今でも医療従事者の皆さま、保健所等の行政の皆さまは、生命を守るために、日夜対応してくださっています。そのことを想い、感謝し、私たちはすべき感染予防対策をしっかりとしていきます。日常の衛生管理こそ、大事なのです。もしも間違った対策や勘違いをしていたのであれば、見直していきましょう。見直すために、オンラインで開催されている研修にもご参加ください。

今後の流行状況によっては、従来通りの方式では卒園式は中止、延期になる可能性もあります。人々が同じ時間に同じ場所に集まるのが高いリスクであることは、この1年でよくご理解されてきたことと思います。よく考えて、熱意をもって複数の選択肢を用意して、感染症対策をしつつ、卒園式をご検討ください。そして5歳児クラスの麻疹風疹予防接種2回目の確認をして（予防接種歴の確認は最大のプレゼントです）、小学校に送り出してください。

■変異株

2021年1月8日に新型コロナウイルス感染症において緊急事態宣言が出されましたが、2月6日までの予定を延長することになりました。2020年末ごろに新規発症者のピークを迎え、現在

(2021年2月18日)感染者数も減少傾向にあります。しかしながら、今後の流行の動向にも注意が必要です。

その1つが、変異株の動向です。ウイルスは、例えば毎年流行するインフルエンザウイルスもそうですが、少しずつ変異していると考えられています。学校の理科室にDNAの二重構造の模型があったことを覚えていらっしゃるでしょうか。ワトソンさんとクリックさんが1953年2月21日に発見しました。地球上の多くの生物の遺伝子上の情報の解明が始まりました。DNAは二重らせん構造で2本の鎖になっていますが、そのうち1本と、ほとんど同じ塩基配列を持った物質にRNAがあります。新型コロナウイルスは、このRNAウイルスで、通常2週間で1か所程度の速度で変異していると考えられています1)。

ではウイルスが変異することで、感染力の強さや症状に変化があるのか?といえは変化が生じる場合もあります。ですので、ウイルスが変異しているかどうかを迅速に把握することは、感染症対策では非常に重要なことです。

2020年12月15日に、BBCNEWSにおいて「英イングランドの一部で新型コロナウイルスの変異株が急速に広がっているのが確認された」と、マット・ハンコック保健相が14日に報告した」と報道がありました2)。

2020年12月22日に、国立感染症研究所は以下の報告をしました1)。「英国では、過去数週間にわたって、ロンドンを含む南東イングランドで新型コロナウイルス感染症(COVID-19)症例の急速な増加に直面しており、疫学およびウイルス学的調査を強化してきた。そして、南東イングランドで増加しているCOVID-19症例の多くが、新しい単一の系統に属していることが確認された。」この時は、イギリスの変異株は、日本国内では見つかっていないと報告されています。ECDC (European Centre for Disease Prevention and

Control) の報告では、これまでの流行株よりも感染性が高い(再生産数(R)を0.4以上増加させ、伝播のしやすさを最大70%増加)ことが示唆されていました³⁾。先の国立感染症研究所の報告では、英国からの輸入リスクがあるものの、現在は英国からは外国人は原則入国禁止で、日本人等の入国者は、空港での検査と14日間の自宅待機が行われており、輸入リスクは低いとしていました。

ところが、年が明けてまもなく、2021年1月6日には日本国内で1例目の「新型コロナウイルス感染症(変異株)の患者等の発生」について報告がありました⁴⁾。海外からの帰国歴のある患者で、国立感染症研究所で検査したところ、英国において報告された変異した新型コロナウイルス感染症(変異株)と確認されました。

その後、まもなく1月10日には英国から入国した患者とその濃厚接触者に変異株が3例確認され、1月18日には英国に滞在歴なしで濃厚接触者でもない患者(静岡県の男女3名)に変異株への感染が確認されました。

変異株で最も心配することは、より重症化しやすいのか、ワクチンは効くのかといったことですが、厚生労働省は「WHOによると、これらの変異が、より重症化しやすい、あるいはワクチンが効きにくい、とする根拠は今のところ認められていません。他方で、今後、世界中でさらなる調査分析が必要としています。」としています⁵⁾。

現在、国立感染症研究所が国内で確認された新型コロナウイルスの遺伝子を調査しており、2021年2月12日に「感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の新規変異株について(第6報)」として情報提供をしています⁶⁾。この報告では、変異株は日本を含む世界各地で検出されていること。国内においても、渡航歴のない者や渡航歴のある者との疫学的関連のないVOC-202012/01の感染者が各地で報告されつつあること。流行国で

はこれから変異株の占める割合が上昇することが見込まれていること。これらの変異株はウイルスの感染・伝播性が増加している可能性があることから、まん延した場合には、従来と同様の対策では、これまで以上の患者数や重症者数の増加につながり、医療・公衆衛生体制を急速に圧迫するおそれがあることを伝えています。

今後も変異株の感染者が発生した場合、報道発表等を通じて情報提供がありますが、変異株であっても、これまで通りの感染予防対策は同じです。密集、密接、密閉にならないように距離をとること、マスクの着用、手洗い等です。動向にも注意をしていきましょう。

参考文献

1. 国立感染症研究所英国における新規変異株(VUI-202012/01)の検出について(第1報)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/10074-covid19-27.html>
2. BBCNEWS (2021年12月15日)
<https://www.bbc.com/japanese/55312144>
3. European Centre for Disease Prevention and Control. Rapid increase of a SARS-CoV-2 variant with multiple spike protein mutations observed in the United Kingdom. December 20, 2020.
<https://www.ecdc.europa.eu/sites/default/files/documents/SARS-CoV-2-variant-multiple-spike-protein-mutations-United-Kingdom.pdf>
4. 厚生労働省新型コロナウイルス感染症(変異株)の患者等の発生について令和3年1月10日
https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15970.html
5. 厚生労働省新型コロナウイルスに関するQ&A(一般の方向け)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html

6. 感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念される新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の新規変異株について（第6報）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/10169-covid19-35.html>

■保育園で新型コロナウイルス感染症が発生した実際の事例から(2)

先月号からの続きです。

未就学児の感染例、発症例は非常に少ないものの、職員が初発例となって保育園での発生事例があります。先月号でお伝えしたA保育園は、自分の保育園で発生が確認される前の週に、同じ地域内の別の保育園（B保育園）から事例報告を聞いていたこともあり、対応がしやすかったとのことでした。

今回も、B保育園の看護師さんに、メールインタビューした内容をお伝えします。今回の事例も職員で初発感染例があり、その後臨時休園をされた事例です（*その時の対応事例となっていますので、今後もこの通りの対応であるとは限りません。保健所、保育課と連携をしていきます）。

火曜日：Aさんこの日まで通常出勤。Aさん夜に39度の熱が出る。

水曜日：Aさん朝には熱が下がったがそのまま自宅待機。午前中に医療機関を受診。その際には風邪と診断を受けた。

木曜日：Aさん昨夕に再度高熱が出たため午前中に医療機関を再受診。レントゲンと採血検査を受ける。発熱に加え咳症状、鼻詰まり、嗅覚障害もあった。

同日午後（16：30）、Aさんと同居していないが週末に接触のあった家族（Bさん）がPCR検査を受け陽性。AさんはBさんの濃厚接触者になる。この時、AさんはBさんと居住の自治体が違うためAさんの自治体へ連絡相談をした。

金曜日：Aさん濃厚接触者としてPCR検査を受ける。結果判明が休日になるため、午前中に保育課や保健所へ連絡、相談のうえ、陽性だった場合の臨時休園（Aさんの最終出勤日を0として14日間休園）と濃厚接触者の選定など対応を確認した。

土曜日：午後12時過ぎ、Aさん陽性と報告が入る。保育課へ連絡、保育課から保健所へ連絡、職員が休園の連絡、濃厚接触者への連絡実施後、濃厚接触者へ保健所から連絡。

翌週の火曜日：濃厚接触と選定された職員1名（Cさん）が陽性（無症状）と報告が入る。保育課へ連絡、Cさんの最終出勤日を0として14日間を加味し休園延長。

本事例は、2020年9月の段階での対応です。職員の初発事例から休園の措置をとることとなり、とても大変な対応であったと思いますが、行政担当者とも迅速に連携をし、決断されたと思います。現在（2021年2月）では、みなと保健所の報告（本誌2020年12月号）を参考にし、園児への感染事例は少ないこともあり、長期の休園措置をとらなくてもよい事例も多くあります。

本事例では、職員と保育園の職場内の関係により注目していただければと思います。体調が悪くても水曜日にそのまま出勤していたらどうなっていたでしょうか。体調が悪くても、職場に言えず、そのまま仕事を続けていたらどうなっていたでしょうか。Aさんは、しっかり自分の体調管理をして、報告をして、医療機関に受診をしています。翌日の体調変化の際にも医療機関に受診をしています。また、週末に会った家族の状況も連絡をうけ、その内容を職場にも迅速に伝えていきます。今回のB保育園では、自分の健康状態を伝えやすい職場作りがなされていたと思います。日頃

からの園長先生、看護師さんの職場環境への配慮があったことがうかがえました。

『(1) 今回の感染者の発生があったとき、まず、最初にどう思いましたか。』

「『いつ来るかはわからない』『いつあってもおかしくない』と職員間で話していました。陽性者の濃厚接触者であり症状が出ていたので、『やはり』と思いました。」

『(2) 最初に誰に相談しましたか。』

「すべてのタイミングで1番初めに園長と主任に相談報告しました。園長から保健所に連絡し相談確認をしました。濃厚接触者の確認段階で初発例の検査結果が出ていませんでしたが、陽性の可能性が高いと考え、連休で関係各所との連絡や対応が難しくなることを想定して保育課に報告相談をしました。」

『(3) 今回の対応を通して、もっとも心強かったのは、どなた（部署）でしたか。』

「実際に対応してくれた保育士リーダーと保健所です。」

『(4) 今回の対応でとても大変だったことは、何だったと思いますか?』

「保護者への連絡、職員への伝達（保健所との確認事項）、不安への応対です。また最初に伝えた臨時休園中にはありませんでしたが、延長することを保護者に伝えた後、他の場所での保育の要望連絡があったため、保育課と対応を協議しました。」

『(5) 今回の対応について、どういう準備をしておけばよりスムーズだったと思いますか。』

「保健所から求められる資料がわかっていたら先に準備ができました。特に名簿の用意です（保育園にある台帳がそのまま使えなかったため、改めて作ることになってしまった。）もし用意ができていれば、連絡や対応がもっとスムーズだったと思います。」

『(6) 最後に、今回の対応を、他の園と共有をしようと思った理由をおしえてください。かくしておきたい気持ちはなかったですか。』

「保健所へ連絡後に必要な資料を記載したFAXを頂きました。濃厚接触者の選定のために必要な資料を、職員が動揺する中で情報収集することは非常に大変でした。事前に知っていれば準備が出来たこともたくさんあったと感じ、保健所に相談して準備資料の書類を看護師会で共有しました。おそらく看護師が中心になり対応していただろうと考えました。園長も園長会ですでに話をし『感染したことは決して悪いことではない。一生懸命対応したことを、胸を張って話せばいい。共有したら良い』、『まだ、経験のない園にとり、事前に少しでも分かっていたら、心構えや準備が出来、良い対応手段を考えることに繋がるかも知れないから。』と言っていました。私は、用意するもの、経過の共有で見通しができ、経験のない保育園に伝えてあげたいと思いました。一方で、来年度新入希望の方で、見学予定者があったので連絡をどの様に入れるべきか検討が必要でした。」

■実際の事例から学ぶ（職員の不安への対応）

どれだけ多くの保育園の先生が、自分が感染しないように細心の注意をされてきたことでしょうか。自分が感染したことで与える影響の大きさを考えると、どこにも出かけず、職場と自宅だけの生活だったことと思います。また、園内で新型コロナウイルス感染症に感染したという報告があり、濃厚接触者調査を行ったところ、陽性者が数人確認された保育園もあったことでしょうか。悪いことをしたわけではありませんが、直面した出来事にお疲れになったことと思います。そうした先生方に、本来であればかけつけて背中をさすってお気持ちをお伺いしたいところです。二次感染対策をしっかりしていく気持ちに切り替えていただけるように、寄り添いたいと思います。こうした

大変な毎日であっても、笑顔を絶やさず毎朝子どもを受け入れてくださり、保護者の出勤を見送ってくださってきたことと思います。本当にありがとうございます。先生方のおかげです。

今回の事例から学ぶこともたくさんありました。日ごろからの管理職（園長先生）との信頼関係や職員間の連携があることを感じていただけたでしょうか。感染症対策は、保育園の組織として行う必要があります。そして、有事の際には専門家に早い段階で連絡をし、相談することが大事です。そうした一連の対応ができていたと思います。なお、このB保育園ですが、後からわかったことですが、自治体での保育園サーベイランスの必要性をいち早く認識をして保育課、保健所に働きかけてくださった保育園でした。最初のところで、「いつ来るかはわからない」「いつあってもおかしくない」という早期探知に対する姿勢があり、園長先生の「感染したことは決して悪いことではない」というお言葉に、感染症対策への理解があると感じました。感染症対策は、情報の共有は基本です。隠してしまうと、早期対応につながりません。心構えができていれば、対応がしやすくなります。サーベイランスが必要であるというところにつながっています。

最も皆さんにお伝えしたかったことは、初発感染例の職員の不安への対応についてです。未知のことに対して、誰もが不安のみならず恐怖に陥ってしまいます。そうした恐怖の感覚は、思いもしない方向に人々の気持ちを向けてしまうことがあります。心無い発言もあったことでしょう、不安で、不安でしかたがなかったことでしょう。B保育園でも、漏れ聞こえてきた職員間の何気ない会話、職員の子どもの預け先に連絡やお休みのご協力があったことや職員家族の仕事への影響などから、感染した職員は自分を責められているように感じてしまったそうです。自分は出勤して良いのだらうかと思うと言ってきたそうです。不安にな

り泣いてしまうことがあったそうです。初発例の職員の方は、どんなに苦しかったことでしょう。

感染することは悪いことではないのです。そうした理解が周りに無いように感じてしまうくらい苦しさだったのではないのでしょうか。B保育園の看護師さんは、出勤してからも何度も心細い職員に対して声を掛けていきましたとおっしゃっていました。こういうときだからこそ、声をかけていけることはとても立派なことだと思います。それができるから、こうした事例を共有してほかの保育園の役に立ちたいと思ってくださったと思いますし、サーベイランスをして地域の情報を共有する意味を知っているのだと思います。職員の方が、傷ついて辛く思っやめてしまうのではないかと感じたそうです。感染症にかかることで、離職への危機になることは、あってはならないことなのです。本人を追いつめたり、しんどい思いをさせたりしてしまうことがないようにしなければなりません。

実際には、検査結果が出るまでの期間に保育を続行してよいのかどうかも園長先生はじめ不安だったと思います。濃厚接触の定義や検査体制は、状況によって変更されていることもありますので、いま、何をしなければならぬのかといったことを冷静に受け止めることができるように、保健所との連携、相談は常に必要です。また、保育園に子どもを預ける保護者に対応しなければなりません。事前に、短時間保育の可能性や休園の可能性もあること、状況によって対応が変わる可能性があることを伝えておく必要もあります。現在は、SNS等によってさまざまな不確定な情報を含めて、保護者は情報を受け取っていますし、探し求めてもいます。自分の保育園から伝達される内容を冷静に受け止めていただくように、伝達方法を事前に伝えておくとうよいと思います。これからも、日々の感染症対策をしっかり行って、常に有事には備えておきましょう。今後も新型コロナ

ウイルス感染症の発生があるかもしれませんが、あわてないで、保健所と連携をして、冷静に対応していきましょう。そのとき、「子ども及び保護者・職員が差別的な扱いを受けないよう

にすること。」を忘れないでください。いつの日も、不安に思っているすべての方々に思いを寄せていきましょう。

ランドセルに名前を・・・
母子健康手帳にワクチンを

国立感染症研究所 感染症疫学センター IDSC
http://www.niid.go.jp/niid/idsc.html



小学校入学準備に 2回目の麻疹・風疹ワクチンを！

2006年4月1日以降、定期の予防接種としては麻疹・風疹混合生ワクチン(measles-rubellaMRワクチン)の接種が開始となり、同年6月2日から右記の年齢での2回接種となりました。

第1期、第2期を過ぎてしまうと定期の予防接種として受けられなくなってしまいます。

小学校の入学前に接種がすすんでいるかどうかを確認しましょう。2014年4月2日～2015年4月1日生まれのお子さまは、2020年度に第2期の定期接種を受けます。

第2期でまだ麻疹と風疹の予防接種をそれぞれ2回ずつ受けていないお子さまはかりつけ医とよく相談し、ぜひとも2021年3月31日までに受けてください。

接種広場情報に関しては、お住まいの市町村(特別区)にお尋ねください。



対象年齢 第1期 1歳児
第2期 5～7歳未満で小学校就学前の1年間(就学前年度4/1～3/31)の者

接種方法 麻疹および風疹の予防接種は以下の方法による2回接種

ワクチン	1歳時	2歳時	3歳時	4歳時	5歳時	6歳時	7歳時	8歳時
麻疹・風疹混合(MR)	1回	4回(1回)	4回(1回)	4回(1回)	4回(1回)	4回(1回)	4回(1回)	4回(1回)
MRワクチン未接種の場合*	麻疹 1回	麻疹 1回	麻疹 1回	麻疹 1回	麻疹 1回	麻疹 1回	麻疹 1回	麻疹 1回
風疹	1回	4回(1回)	4回(1回)	4回(1回)	4回(1回)	4回(1回)	4回(1回)	4回(1回)

*同じ「期」内で麻疹ワクチンまたは風疹ワクチンのいずれか一方を受けたお子様あるいは麻疹ワクチンと風疹ワクチンをそれぞれ別々に接種することを希望するお子様。

<https://www.niid.go.jp/niid/images/vaccine/vaccine-poster/20200401/20210401vaccine-poster.pdf>